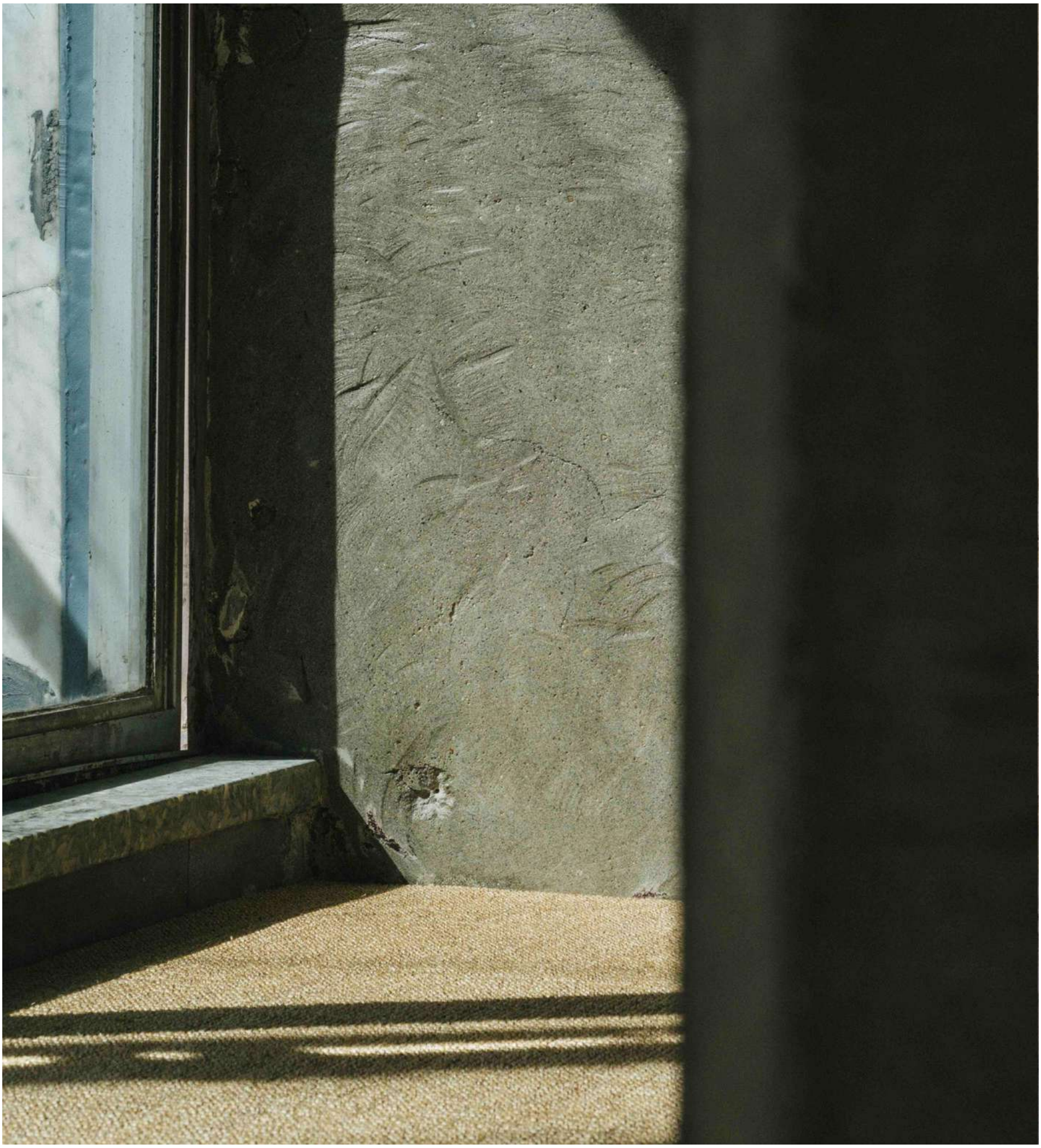
4 580894 010508

SHIRO PAPER

Issue 8
November 2026

2 GINZA
銀座の街を歩き、
人々の話を聞き、歴史を知る

8 SENSE OF COMMUNITY
失敗しても帰ってこられる場所
支える人を、支える





うけつぐ、つくる、てわたす
人の暮らしに、
小さな変化が生まれる

SHIRO は銀座に新しいお店を開きます。
銀座の街を歩き、人々の話を聞き、歴史を知る。
そこで出会ったのは、
長く大切に使われてきた一棟の建物でした。

私たちは、その場所に残されたものを受け継ぎ、
新しい店をつくることにしました。

日本各地で集められた草花が、誰かのお気に入りになる。
銀座で書かれたはがきが、遠く離れた誰かに届く。
この店で生まれる小さな出来事が、
波紋のように、日々の暮らしへと広がっていったら。

Photo: Shin Sasaki
Text: Shin Sasaki

銀座の路地裏を歩いて見つけた
華やかな街の、もうひとつの素顔

「銀座」と聞いて、どんな街を思い浮かべますか。老舗の百貨店や世界的なブランドが並び、美しく飾られたショーウィンドウを眺めながら歩く。日本各地に◯◯銀座という通りや商店街があるように、日本を代表する商業地として、華やかなイメージを抱いている方が多いのではないでしょうか。江戸時代、この地には銀貨をつくる銀座役所が置かれ、「銀座」の名が生まれました。明治には大火をきっかけに煉瓦街がつくられ、新しい商売を始めようとする人たちが集まります。やがて新聞社や通信社も進出し、路地裏のバーには太宰治や坂口安吾らが通いました。銀座は、ものを買う場所であると同時に、新しい商売や文化、人が出会う場所でもあったのです。

銀座三越にはSHIROの店舗があり、私たちもこれまで何度も足を運んできました。でも、路面店をつくることになり、あらためて向き合ってみると、銀座がどんな街なのか、実はよく知らないことに気がつきました。SHIROはソウル、台北、香港に出店するとき、その街を歩き、人々の話を聞き、歴史や文化を学んできました。なぜその街にSHIROが出店するのかを考えるためです。ところが日本では、自分たちが暮らし、SHIROが生まれた国だから、わかったつもりになっていたのかもしれません。そこで、銀座本店について考えるにあたり、まずは設計チームと一緒に銀座を歩くことにしました。いわゆる「銀ぶら」です。

大通りから一本横道へ入り、細い路地を抜ける。表通りには大きな店が並んでいても、その裏には小さな店があり、通りを一本曲がるだけで建物も店構えも変わります。さらにビルの間の狭い隙間に入っていくと、昭和にタイムスリップしたような路地裏に迷い込みました。華やかな表通りから少し離れただけで、まったく違う銀座が現れる。歩くほどに、知らなかった街の表情が見えてきました。





それぞれの店がつくってきた銀座の街
その風景の一部になる

銀座の街並みは、誰かが街全体を一度に完成させたわけではありません。古い建物の隣に新しいビルが建ち、その隣ではまた別の時代の店が商いを続けています。それぞれの土地や建物の持ち主が、それぞれの判断でビルを建て替えたり、改装しながら使ってきました。一軒一軒が違う時間を重ねてきたことが、銀座の風景をつくっています。そして、この街には、店同士が互いに顔の見える関係も残っています。銀座全体をまとめる集まりだけでなく、丁目ごとや通りごとに店や企業が集まり、「町会」や「通り会」をつくって、街の景観や環境を守ってきました。SHIRO 銀座本店が面する松屋通りにも「松屋通親交会」があり、通りの美化や地域の活動を続けています。

かつて銀座通りの拡幅にともなって、銀座のシンボルとして知られる柳が撤去されたことがありました。地元の商店主たちは反対し、復活を求める運動を続けます。そして1932年、柳は再び街路樹として戻ってきました。行政に判断を委ねるのではなく、そこで商いをする人たちが、街の風景を守った一例です。世界的なブランドが軒を連ねる銀座が、実は地方の商店街のような、顔の見える関係に支えられている。少し意外で、面白い発見でした。

ある店主は「銀座には勝ち組が集まる」と話してくれました。確かに、その時代に勢いのある企業が店を構える街です。でも、そんな銀座にも、一軒一軒の店が顔を合わせ、通りのことを話し合い、街を守ってきた歴史がありました。私たちも、銀座という街の名前にあこがれるだけでなく、そこで商う人たちと関わり、街のことを知っていきたい。華やかな表通りよりも、昔ながらの営みが残る裏通りにこそ、惹かれるものがありました。

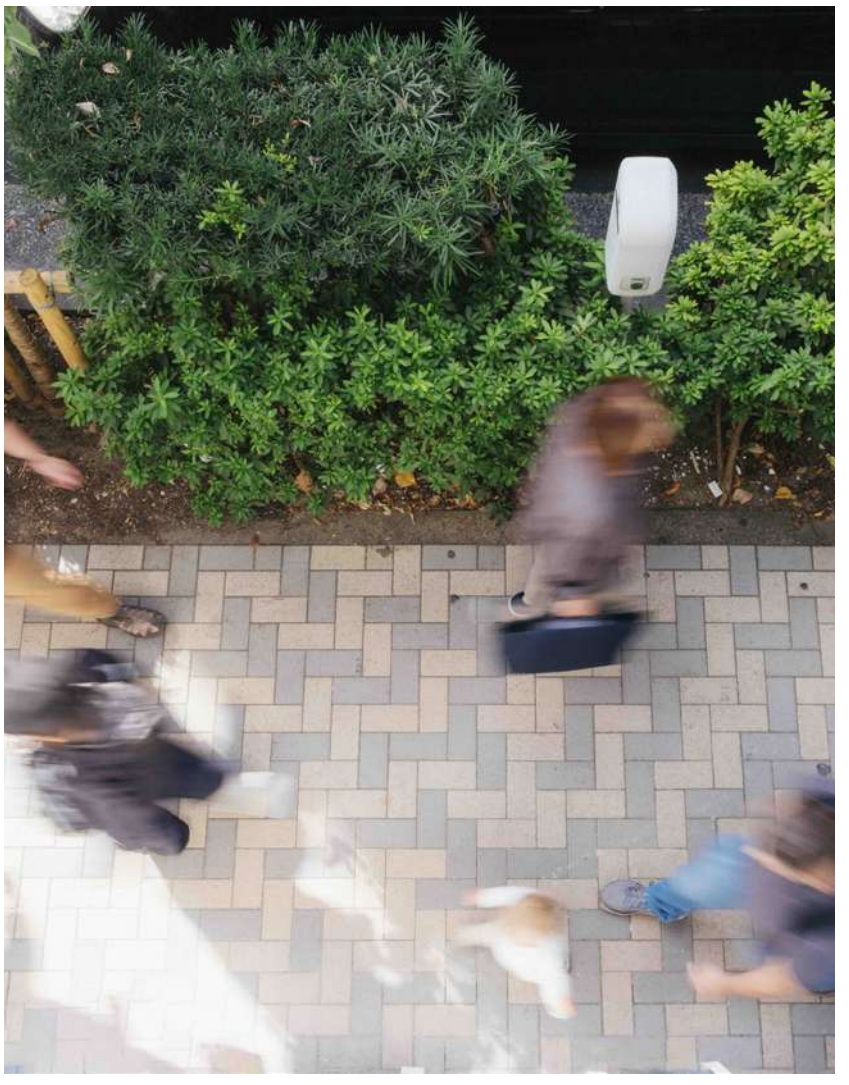
祖父が設計した1960年のビルを建て替えずに、使い続けるという選択

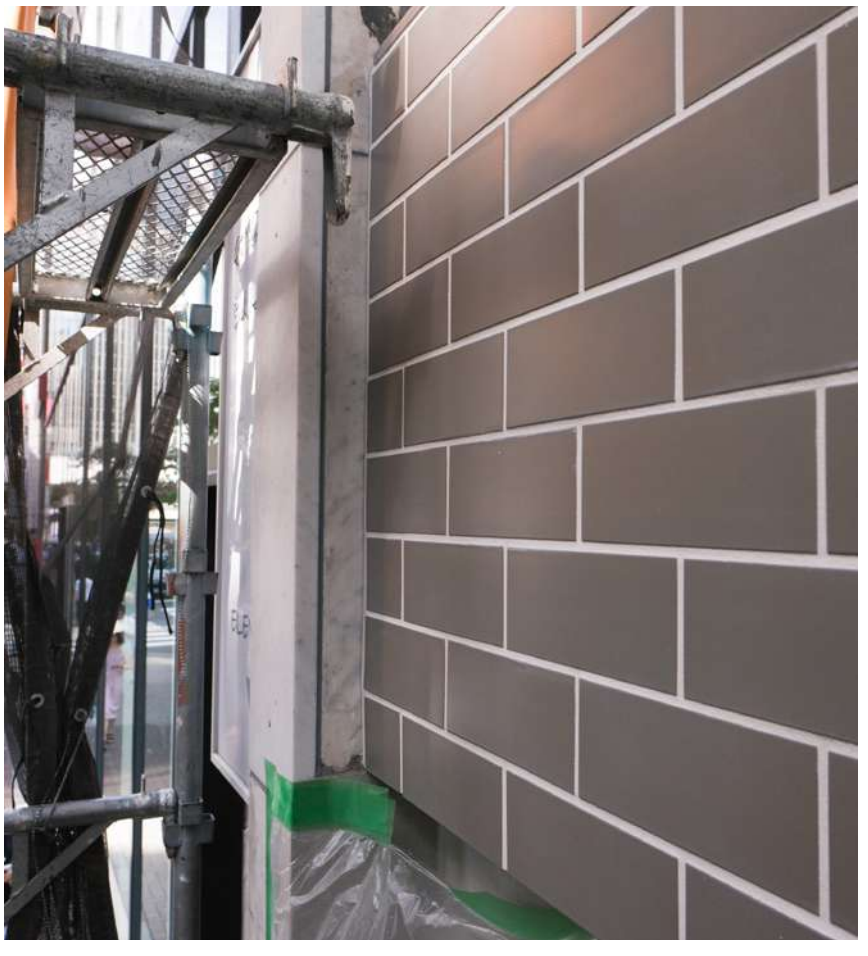
私たちが出会ったのは、長くこの街で使われてきた建物でした。SHIRO銀座本店が入る「銀座ビルディング」は、1960年に竣工しました。現在のオーナーは三代目。この場所には以前、木造2階建ての建物が建っていて、子どもの頃に祖父と将棋を指した思い出があるといいます。その祖父は、もともと神社仏閣の建築や補修に携わる宮大工でした。のちに建築設計事務所を開き、現在のビルも自ら設計したものです。

銀座では、古いビルの建て替えが各所で進んでいます。銀座ビルディングも老朽化が進み、耐震補強が必要になっていました。オーナーが選んだのは、祖父が設計した建物を取り壊すのではなく、手を入れて使い続けること。銀座ビルディングには、完成当時の面影があちこちに残っています。2階の奥には足元から天井までの窓があり、松屋通りを見下ろすと、人や車の行き交う様子が間近に感じられます。窓のアルミサッシは、当時の日本製品は選択肢が少なく、アメリカから取り寄せたものだといいます。

外壁を覆うグレーのタイルは、ドイツから輸入されたもの。長い年月の間にタイルはところどころ欠けていました。元のビルの姿を残すため、当時のタイルを復刻することを決めたオーナー。店舗設計を担当するDRAWERSの小倉寛之さんが、多治見の窯元を紹介し、オーナー側の改修工事に協力しました。ドイツから輸入されたタイルの色や質感に合わせ、日本の職人が新たに型からつくり、欠けていたタイルを補修しました。

耐震補強工事によって、新たにコンクリートの柱が加わりました。建築当時の姿に戻すわけでも、真新しく見せるために覆い隠すわけでもありません。古いコンクリートの柱や梁、新たな耐震壁、異なる時代のものが、同じ建物の中で共存しています。





いつか次の誰かが使うことを考えて45Rと三角屋から受け継いだ店づくり

もうひとつ、私たちがこの建物を選んだ大きな理由は、以前ここに店を構えていたファッションブランド「45R」の存在です。45Rの店舗の内装を手がけたのは、京都と滋賀を拠点に、日本建築をつくる集団「三角屋」です。日本の木造建築の技術を受け継ぎ、木の性質を見極めながら仕事をする職人たち。彼らは、鉄筋コンクリート造のビルの中に、木組みの技術を活かした日本家屋のような空間をつくり出していました。特徴的なのは、そのつくり方。木と木を組み合わせることで、将来、店を解体することになっても、木材をできるだけ傷めずに取り外せるよう工夫されていました。店が役割を終えても、木材はまた別の場所で使うことができます。

私たちは45Rの担当者や三角屋にも話を聞きました。残して欲しい材料を伝えるだけでなく、なぜその材料を選び、どう組み立てたのかを知りたかったからです。SHIROもこれまで、店をつくるときには、まず今あるものを使えないか考えてきました。棚やカウンターを塗り直し、床も剥がさずに色を重ねる。新しい材料が必要になれば、建築現場で余った木材や、検品ではじかれたタイルなどを探しました。「捨てない、そして新たにつくらない」。そんな店づくりを続けてきました。

銀座本店では、45Rから受け継いだ木材や石材を使っています。いったん倉庫へ運び、設計を進めながら使い道を考えました。かつて梁だった木材は、ベンチやテーブルに。トラバーチンの飛び石や扉、巾木を再利用し、真鍮の手すりは塗装を剥がして使い続けます。銀座本店で使いきれなかった木材や石材は、北海道のPARK SHIROで活用することを考えています。以前と同じ場所、用途で使うことにはこだわりません。受け取った素材から、新しく何をつくれるか。そこに、私たちの仕事があります。

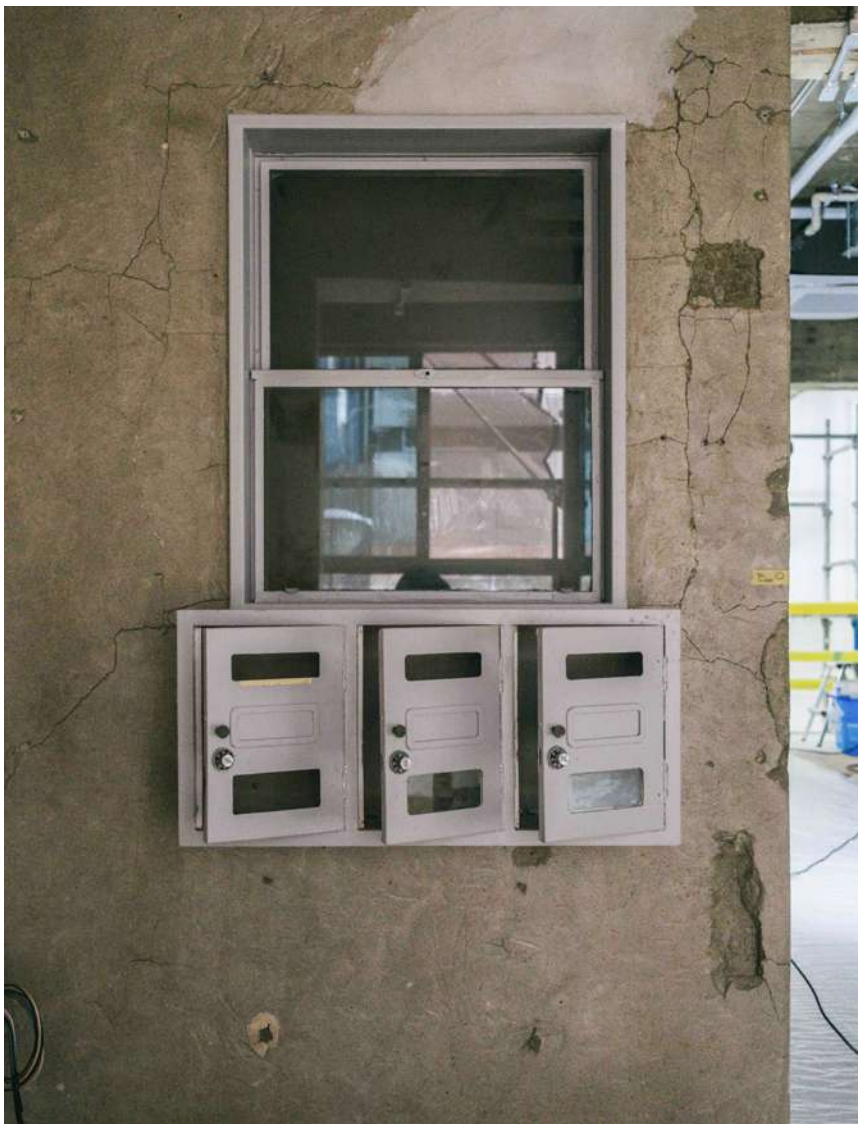
北海道の森で刈り取られた草木が
銀座で自分だけのポプリに生まれ変わる

SHIRO 銀座本店の2階にある「ポプリブレンダーラボ」では、日本各地から届く草木を自分で組み合わせ、オリジナルのポプリをつくることができます。北海道のセイタカアワダチソウのほか、淡路島のラベンダーやレモンバーベナ、イチジクなど、その季節に採れる素材が届きます。

セイタカアワダチソウは、北アメリカ原産の多年草。観賞用として日本に持ち込まれ、現在は日本各地に分布している外来種です。林業の現場で「下刈り」と呼ばれる、植樹した苗木に届く光を遮る草を刈る作業の中で刈り取られます。森では取り除かれる草が、銀座では選ばれる草になる。これまで見過ごされていたものに、別の役割が生まれる。SHIROが大切にしている考えのひとつです。

色や形、手触りの異なる草木の中から、好きなものを選ぶ。どれを組み合わせようかと迷いながら、自分の手でひとつにまとめる。最後に、SHIRO銀座本店限定の春夏秋冬、4種類の香りから好きなものを選び、香り付けすると、自分だけのポプリができあがります。季節が変われば、届く草木も変わります。日本では、季節の草木を生けたり、身近な植物を薬草として利用したりしてきました。そんな草木との付き合い方を、今の暮らしの中でも楽しめたら。ポプリブレンダーラボには、そんな想いを込めています。





一通の手紙と、古いポストがつないだ
銀座から誰かへ便りを送る、新しい体験

SHIRO 銀座本店の1階には、通りに向かって大きく開く2枚の引き戸があります。扉を開くと、そこは土間のような空間。奥へ進み、階段に向かって一段高くなった床に上がると、家の中に入っていくような感覚があります。間口が狭く、奥行きの深い建物を活かした、日本の町家を思わせるつくりです。階段を上がると、商品が並ぶ2階の売場へ。さらに奥へ進み、ポプリブレンダーラボを抜けた先に、少し変わった窓辺があります。新たに耐震壁がつくられ、窓との間に不思議な空間が生まれたのです。ショーウィンドウにすることも考えましたが、差し込む光が美しく、使い方を考えていました。

実は、この店が生まれるきっかけのひとつに、一通の手紙がありました。SHIROのスタッフが物件を訪ねたあと、オーナーに宛てて書いた手紙です。入居を希望する会社がいくつかあった中、その手紙がSHIROを選ぶ決め手のひとつになったといいます。耐震補強の工事現場の床には、古いポストが無造作に置かれていました。かつてビルの共用部分で使われていたもので、危うく捨てられるところを、拾い上げて保存しておきました。光が差し込む窓辺があり、手紙がきっかけになり、使われなくなった古いポストがある。つながりそうでつながらないストーリー。

そんなとき、台湾を訪れていたノンフィクションライター・泉秀一さんから、SHIROのオフィスに一枚のポストカードが届きました。中国大陸に近い金門島に来ていること、「詳しい話は、Podcastで」と書かれた、何気ない一枚です。泉さんが訪れたバーでは、カクテルごとにポストカードが用意され、その場で書いて世界へ送ることができたそうです。このポストカードがバラバラだったピースをつなぎました。

お店で書いたはがきを、送れるようにしよう。

銀座本店では、限定フレグランスを購入された方や、ポプリブレンダーラボを体験された方に、ポストカードをお渡しします。2階の窓辺で誰かに宛ててメッセージを書き、店内のポストへ投函する。はがきは、日本だけでなく、海外にもお届けします。





製品を手渡した、その先のことまで
銀座の街で、未来の老舗を目指して

SHIRO 銀座本店の入口には、白い陶器のサインを掲げます。素焼きの土に白い釉薬をかけて焼いたサインです。新しく店を開くのに、どこか昔からそこにあったような佇まい。「いつか、この街の老舗になれたら」。そんな想いを込めました。老舗と呼ばれる店も、最初は新しい店でした。長く商いを続けるうちに、いつしか街の風景の一部になっていく。SHIROも銀座で、そんな時間を重ねていけたらと思っています。

これまで私たちは、素材がどこから届き、誰の手を経て製品になるのか、ものづくりの過程を大切にしてきました。そして今、製品をお客様に手渡した、その先のことも考え始めています。例えば、SHIRO 銀座本店でポプリをつくった人が、帰り道で道端の草に目を留めるかもしれません。それまで通り過ぎていた植物の名前を知りたくなるかもしれません。ポストカードを受け取った人が、ほかの誰かに手紙を書くかもしれません。製品を使った人の暮らしに、小さな変化が生まれること。あるいは、買い物をしなくても、店を訪れたことで、何か新しい気づきがあること。SHIRO 銀座本店はそんな場所になりたいと思っています。

45Rと三角屋は、次にSHIROが銀座ビルディングを使うことを知っていたわけではありません。それでも、次の誰かが使えるように考えた店づくりが、私たちの新しい店につながりました。私たちがつくったお店も、いつか別の誰かに手渡す日が来るかもしれません。そのときに残せるのは木材や石材だけではないはずです。

森では取り除かれる草が、銀座では選ばれる草になる。ポプリが売れることが、農業や林業の方たちの新たな仕事をつくる。壊すことを考えてお店をつくることで、材料の再利用が可能になる。銀座から世界中に言葉が伝わる。そうした想いが手渡されていく、そんなお店を目指しています。新しい看板が銀座の街並みに馴染み、そこにあるのが当たり前の風景になる頃、SHIROはどんな店になっているのでしょう。



SHIRO 銀座本店
住所　東京都中央区銀座3-3-12
銀座ビルディング 1階、2階
営業時間　11:00 - 20:00　（不定休）

失敗しても
帰ってこられる場所
支える人を、支える

Photo: Shin Sasaki
Text: Shin Sasaki

困りごとを抱えていても、
身近に頼れる相手が見つからず、
公的な支援にもつながれないまま、
孤立してしまう人たちがいます。

2025年9月、SHIROは「シロ財団」を設立しました。
私たちが支えたいと考えているのは、
生きづらさを抱える人たちが、
自分の人生を歩んでいけるように寄り添い、
支え続けている人たちです。

北海道帯広市で活動する「NPO法人スマイルリング」は、
児童養護施設など社会的養護を経験した若者や、
少年院を出たあと、帰る場所を持たない若者たちの
住まいや食事、仕事を支え、
困ったときに相談できる人とのつながりをつくっています。

失敗しても関係を切らず、
何度でも帰ってこられる場所をつくる。
そんなスマイルリングの人たちに会うため、
私たちは北海道帯広市を訪れました。



SHIRO FOUNDATION
だれも排除されない世の中に

未来のための活動に光をあて
だれも排除されない世の中を目指す
「シロ財団」

親を頼ることができない若者たちが社会の中でひとりにならないために

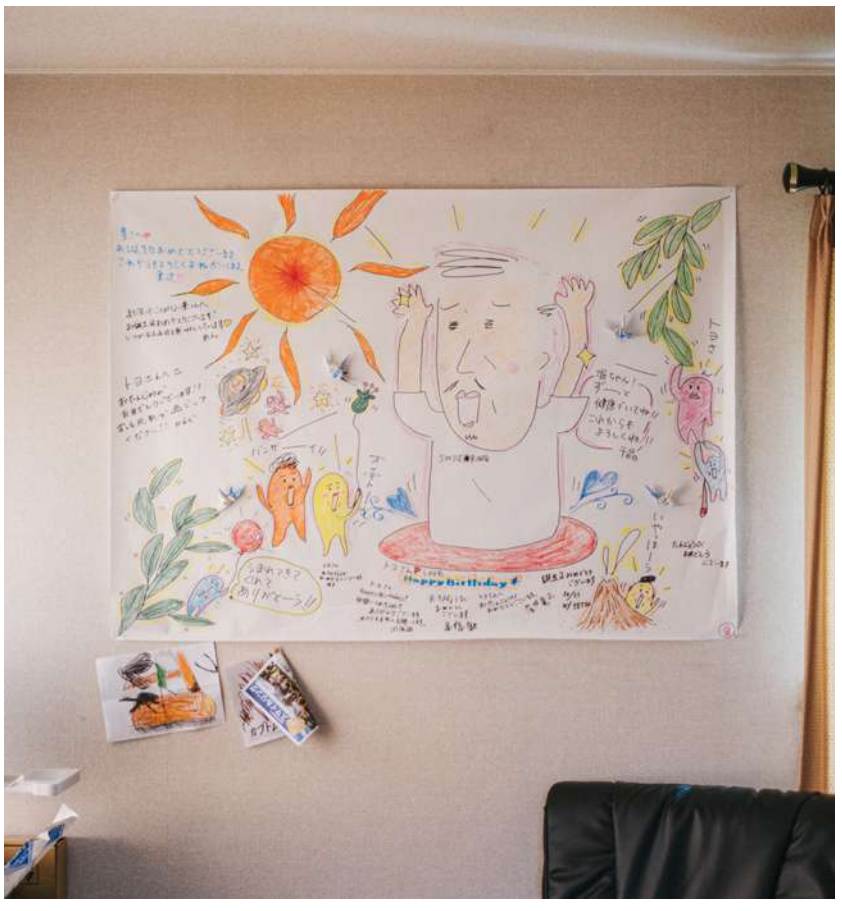
スマイルリングは、北海道帯広市を拠点に、児童養護施設を退所したり、少年院を出院した若者たちに寄り添う NPO です。親がいなかったり、親との関係が良くなかったり、身近に頼れる大人がいない若者たちは、自立を目指す過程で、住まい、食事、仕事、人間関係など、さまざまな困難に直面します。スマイルリングは、そうした若者たちが孤立せずに、自立するための支援を続けています。

2024年4月に児童福祉法が改正されました。児童養護施設や里親家庭などで育った若者への支援を、年齢で一律に区切るのではなく、本人の状況に応じて継続できるよう改定されました。自立援助ホームなどを活用して、住まいや就労の支援を受けながら、必要に応じて成人後の福祉制度（生活困窮者自立支援制度や障害福祉、生活保護、医療など）へつながっていくことが想定されています。

制度上は18歳以降も支援を受けることができます。それでも、高校卒業を機に施設を離れ、親の支えがないまま自立した生活を始める若者は少なくありません。親の支えがないと、つまずいたときに生活を立て直すことが難しい。特に少年院を出た若者の場合、社会的に孤立してしまうことが、再び犯罪に関わるリスクを高める要因のひとつになっています。

スマイルリングは、社会的養護を経験した若者のための「自立援助ホーム」であると同時に、犯罪や非行を経験した人のための「自立準備ホーム」でもあります。制度上は異なるふたつの領域を横断しながら、シェアハウスを運営し、住まいや食事を支え、就労を支援しています。

スマイルリングが大切にしているのは、若者たちとの信頼関係の構築です。自立や更生には紆余曲折があります。彼らが失敗しても、そこで関係を切らない。何度でも声をかけ続ける。答えを見つけることを急かさずに、寄り添い続ける。そうした時間のなかで、若者たちは「自分のことを気にかけてくれる人がいる」と感じ、少しずつ心を開いていくのです。困ったときに安心して帰ってこられる、家族のような関係をつくること。それが、スマイルリングの支援の根底にあります。





何度でも、つながり直せる社会へ生き直すための土台を、ともにつくる

非行や犯罪により少年院に入った若者たちを支援することについては、さまざまな意見があるでしょう。被害を受けた人がいる場合、その存在を軽んじることはできません。一方で、薬物など、直接の被害者が見えにくい問題もあります。

また、犯罪という事実だけでなく、彼らが罪を犯した背景に目を向ける必要があります。彼らが育った家庭の多くが、何らかの問題を抱えています。たとえば、親との死別や離婚、家族からの身体的・精神的暴力、DV、ネグレクト、家庭内のアルコール・薬物問題など、子どもの生育に大きな影響を与え得る経験です。

一度罪を犯すと、本人が社会復帰を望んでもなかなかかなわないのが日本の現状です。自業自得だ、罰則をもっと厳しくするべきだ、という意見も聞かれます。しかし、罰則を厳しくしても、若者たちを孤立したまま社会に戻せば、再び罪を犯す可能性が高まります。その悪循環を脱するために必要なのは、住まい、食事、仕事、そして何より、相談できる、信頼できる人たちとのつながりです。

私たちは決して、彼らの過去の非行や犯罪をなかったことにしようとしているわけではありません。彼らが社会の中で生き直すための土台を、どのように築くか、それを考えたいのです。

少年院や刑務所を出た若者たちが、社会的に孤立したとき、助けてくれるのは、反社会的な組織の大人たちです。それが再犯要因になっています。そのループを抜け出すために、何ができるのでしょう。

若者たちが「自立」を目指すときに、本人たちの努力だけに委ねるのでは、限界があります。彼らを受け入れる社会の側に、安心して何度でもつながり直せる居場所が必要です。スマイルリングの活動を通して、私たちはその必要性を強く感じました。私たちが若者たちにできる支援は限られていますが、若者たちを支援する人たちを、継続的に支援することならできるのかもしれない。
スマイルリングの活動の中心を担う３人をご紹介します。たったひとりで NPO を立ち上げた堀田豊稔さん。若者たちのお母さん、野々村千晶さん。ドレッドヘアがトレードマークでジャマイカ人のような風貌の河原崎拓也さんの３人です。



堀田 豊稔

Toyotoshi Horita



支えられた経験を原点に
若者の居場所と仕事をつくる

2016年にスマイルリングを設立し、代表を務める堀田豊稔さん。ふたつのスマイルリングを設立し、親に頼ることができない社会的養護出身の若者や、少年院を出院した若者たちを、さまざまな角度から支援し続けています。

最初に立ち上げたのが、NPO法人スマイルリングです。若者たちに安心できる居場所を提供し、彼らが社会の中で孤立しないよう、継続的なサポートを行なっています。そして、2021年に、アスファルト舗装工事などを請け負う、株式会社スマイルリングを立ち上げました。この会社は、NPOの活動を金銭面で支えると同時に、若者たちに働く場を提供し、彼らの自立を支えています。

堀田さんがスマイルリングを立ち上げた背景には、自らの生い立ちがあります。堀田さんは20代を暴力団員として過ごしました。共働きの両親の元で、おばあちゃん子として育った堀田さん。中学生になった頃、母が男性と駆け落ちし、両親が離婚した頃から非行に走り、17歳で暴走族の総長になりました。19歳で覚醒剤所持で逮捕され、少年院に入院。成人式は少年院で迎えたといいます。

堀田さんが出院するときに、身元引受人を申し出てくれたのが、先輩たちが働く舗装会社の社長でした。少年院を出たばかりの堀田さんを雇用してくれただけでなく、会社の2階を住居として提供してくれるなど、出所後に自立を目指す堀田さんを支援してくれました。「当時社長がやってくれたことがね、スマイルリングの原点です」と堀田さんは言います。

少年院を仮退院するには、身元引受人が必要です。身元引受人がいなくても20歳になれば満齢退院となりますが、安心して暮らせる「住まい」と「仕事」があることが、自立するために欠かせない要素です。行くあてのない若者たちは路頭に迷うことになり、元いた非行グループや違法の商売との接触から、再犯に走るケースが多いのも現実です。

何度も道を外れながら
支える人へと変わっていく

しかし、支援してくれる社長と出会っても、そのままま っすぐに更生しないのが堀田さんです。少年院を出たあとも薬物を断ち切れず、お世話になった舗装会社を辞め、暴力団員になりました。そして28歳のとき、再び覚醒剤所持で逮捕され、服役します。30歳で出所した後は、建設会社で働きながら暮らしを立て直し、結婚して子どもも生まれました。しかし、一度狂った金銭感覚は簡単には戻りません。「悪いことをした方が楽に稼げるのではないか」「俺はこのまま一生終わっていいのか」。そんなふうに心が揺れる時期がありました。

転機になったのは、憧れていた川嵜竜希さんとの出会いです。川嵜さんは元プロボクサーで、堀田さんと同じように薬物や少年院を経験しながら、ボクシングを通して人生を立て直していました。さらに川嵜さんが兄貴と慕う、児童養護施設で育った元日本ライト級チャンピオン・坂本博之さんにも出会います。堀田さんは二人とともに児童養護施設や少年院を訪ねるようになり、やがて若者たちが帰ってこられる場所をつくろうと、NPO法人スマイルリングを立ち上げました。

坂本さんから聞いた「我が道を行く人生は一本道だから、いつか行き止まりがある。でも、輪には行き止まりがない。人は一人では生きていけない」という言葉は、スマイルリングという名前にもつながっています。

少年院や刑務所を出た若者たちと信頼関係を築くことは簡単ではありません。犯した罪を肯定するのではなく、なぜそこに至ったのかを知り、再び同じことを繰り返さないために何が必要かを、一緒に考える。そこで力を持つのが、堀田さんたちのように、自らの経験をもって若者と向き合う大人たちです。支える側にいる彼らも、かつて誰かに支えられた人たちです。正論だけでは届かないところに、迷い、支えられ、生き直してきた経験から語る言葉が届く。それが、若者たちが心を開き、もう一度社会とつながるきっかけになっています。

野々村 千晶

Chiaki Nonomura



会いたかった少年がつないだ スマイルリングとの出会い

野々村千晶さんがスマイルリングと出会うことになる種は、20年ほど前に蒔かれていました。当時、野々村さんが勤めていた建設会社の隣に、幼い兄弟が住んでいました。毎日のように近所の子どもたちと一緒に会社の駐車場で遊び、いたずらをしては叱られ、「ちあきちゃん、ごめんなちゃい」と謝りに来る。そんな賑やかな日々を過ごしていた兄弟ですが、ある日突然いなくなりました。児童養護施設へ入ったということを後になって知りました。そして、それっきり兄弟たちに会うことはありませんでした。

「成人を迎えた彼らは、どんな暮らしをしているだろう？」
「親を頼れない若者たちは、どうやって生きていくのだろう？」

そんな問いが、野々村さんの中で膨らんでいきました。自分にできることが何かあるのではないか、と調べる中で知ったのが、地元帯広で、児童養護施設を退所した若者たちの自立を支える、NPO法人スマイルリングの存在でした。年会費を振り込むとすぐに堀田さんからお礼の電話がかかってきました。話を聞くと、堀田さんはこれから青年たちを連れて、関東へ出稼ぎに行くところだといいます。

半年後、堀田さんたちが帯広に帰ってきたタイミングで、野々村さんは初めてスマイルリングホームを訪れました。そして、会社の駐車場で遊んでいた兄弟たちが、児童養護施設に関心を持ったきっかけだったことを伝えました。すると、「その子たち、よく知っていますよ」と、堀田さんから思いがけない返事が返ってきたのです。

翌日には弟に連絡がつき、実に13年ぶりの再会を果たしました。小さかった少年は、友人と暮らしながら働く、たくましい青年に成長していました。「あぁ、よかった。ひとりじゃなかったんだ」。何よりうれしかったのは、彼が堀田さんのように信頼できる大人とつながっていたこと。この再会をきっかけに、野々村さん自身もスマイルリングの運営に加わり、若者たちとともに歩む日々が始まりました。

中途半端には関われない 怒りと笑顔で若者たちに向き合う

野々村千晶さんは、若者たちから「お母さん」「おかん」と呼ばれ、親しまれています。言葉にすると、たった一行ですが、複雑な家庭環境で育ち、過酷な体験をしてきた若者たちとの間に信頼関係を築くのは簡単なことではありません。

「私、この子たちのことが大好きなんです。中途半端には関われない。
少年院を出たこの子たちを受け入れるときには、覚悟が必要でした」

野々村さんは、非行歴や犯罪歴で人を判断しません。その人自身と向き合います。若者たちの良いところも、悪いところも全て受け止めて、根気強く関わり続けます。彼らは、自立への道をまっすぐに進むわけではありません。脇道に逸れたり、時には後退したり。「この子たち、毎日嘘をつきますから」と笑う野々村さん。何度嘘をつかれても、野々村さんが若者たちを突き放すことはありません。

若者たちに「お母さん」と親しまれる野々村さんですが、「怒りが私のエネルギーです」とご自身が言う通り、いつでも怒っています。不条理な社会に、杓子定規な行政の対応に、感動して涙を流すだけで何もしない議員や官僚に。

スマイルリングの評判を聞いて、多くの見学者が訪れます。野々村さんや堀田さんの話に感動し、目に涙を浮かべますが、それっきり。視察したという事実だけが残り、若者たちを取り巻く環境は一向に改善されません。SHIROも最初は、そんな企業のひとつだと思われていました。「興味本位で来たなら、私は一切何もしゃべれませんから」。初めて訪ねた日に野々村さんからそう言われたことは、今では笑い話です。

私たちに何ができるのか？ 正直なところすぐには思いつきませんでした。そこで、まず、スマイルリングに通うことから始めました。スマイルリングが2026年7月18日に主催したフォーラム「つながる力で開く未来」に参加し、9月13日には、帯広の児童養護施設で催された「職業体験会」にも参加しました。どちらもスマイルリングが現在抱えている課題を根本的に解決することはできていません。しかし、私たちだからできることが何なのか、少しずつ見えてきた気がしています。


SMILE✳RING


Pack Do!
30

河原崎 拓也

Takuya Kawarazaki



自分も道を外れたからこそ
届けられる言葉がきっとある

河原崎拓也さんは、2026年にスマイルリングに加わり、新たに始まったグループホームの運営を担っています。帯広出身の河原崎さんは、地元の老舗レストラン「ランチョ・エルパソ」で10年間、店長を務めてきました。

転職のきっかけは、スマイルリングで暮らす一人の青年との出会いでした。覚醒剤に依存し、暴力団に追われ、命からがら地元を離れ北海道まで辿り着いた青年。逮捕歴を理由に以前の職場を辞めざるを得なかった彼を、野々村千晶さんが店に連れてきました。事情を聞いた河原崎さんは、そっと彼の手を握り、「君のその個性は武器にもなるんだよ」と伝えました。

初対面の青年に強く感情移入したのには理由があります。河原崎さん自身も高校時代、大量の大麻を所持したとして逮捕され、少年院を経験していました。薬物依存には至りませんでしたが、仲間の中には今でも刑務所への出入りを繰り返している人、薬物で壊れていった人、自ら命を絶った人もいます。「スマイルリングに関わる前から、薬物でおかしくなってしまった仲間をケアしていました」。周囲から「あんな奴は放っておけ」と言われても、孤立していく仲間を放っておけなかったといいます。「今やっていることって、当時とそんなに変わらないのかもしれません」。

少年院を出たあと、河原崎さん自身も、どこから人生をやり直せば社会に受け入れられるのかを考えました。求人情報を見ても、人に頭を下げなければならない仕事ばかりに見え、金銭感覚も狂ったまま。そんな中で「これならできそう、やってみたい」と思えた飲食店で、過去を隠し、言葉遣いや立ち振る舞いを変えながら、少しずつ居場所をつくり、やがて店を任されるまでになりました。

河原崎さんも、堀田さんも、客観的な支援者ではありません。自らも薬物や反社会的な世界の近くで生き、壊れていく仲間を見てきた当事者です。自分自身も社会とのつながりをつくり直してきた。その経験が、いま若者たちと向き合う力になっています。

制度につながるまでの１日を
人と人との関係で支える

河原崎さんは、困っている人を引き寄せる天才です。どこかから相談の連絡が入ると「ちょっと話を聞いてみますね」と、どんなに忙しくても、すぐに走って行きます。そして、しょんぼりうなだれている人、自暴自棄になっている人、怒り狂っている人、能面のように無表情な人、行くあても頼る人も無く途方に暮れている人たちに、「大丈夫だよ。だって俺が来たんだもん。一人にはさせないから」と語りかけます。

助けを求めてスマイルリングに駆け込んでくる人たちは、住まいも仕事もなく、所持金や銀行口座がないことも珍しくありません。携帯電話も持たず、身分を証明するものは、刑務所の在監証明だけ、なんてことも。一口に「自立」や「更生」と言っても、その手前にはいくつもハードルがあり、ひとつずつ越えていくには、かなり時間がかかります。その間、どこに住むのか？ 仕事は？ 食事は？ そこでつまずくと、違法な手段に頼らざるを得なくなるので、この時点での支援が大切です。

行政の福祉サービスは、生活困窮者の生活を支える上で欠かすことのできない制度です。しかし、申請して、審査を経て初めて支援につながるので、目の前で起こっている困りごとに対応することはできません。今晩寝るところがない、何日も食べていないといった状況に対して、公的支援が始まるまでの隙間を埋めているのが、スマイルリングのような民間の支援です。「家がない、食べるものがない人にとって、1日って、想像を絶する長さです」と河原崎さんは言います。問題の多くは夜に起こりますが、行政窓口は夜間は営業していません。また、警察は犯罪に関与していない困窮者のために居場所を提供することはできないため、必然的に夜間はスマイルリングのような民間支援団体に相談が集中します。スマイルリングは小さな組織で、夜間の対応は河原崎さんが一人で担っているのが現状です。夜勤スタッフを雇用できる財政的な体力をつけることが喫緊の課題です。「せめて行政に、夜間の当直の人がいたら」と河原崎さんは言いますが、連絡が入ると、気づけば現場に駆けつけているのです。

SHIRO NEWS

GINZA FLAGSHIP SHOP



EXPERIENCE WORKSHOP

あなただけの自然の景色に出会う「ポプリブレンダーラボ」

2 階のラボに広がるのは、日本各地のつくり手たちの想いが詰まった、自然の景色の結晶です。100 年先の森を想うきこりが集めた草木や各地の畑で育まれた植物。そして、美しいままにもかかわらず、本来なら捨てられてしまう花を救い出し、新たな魅力を引き出すロスフラワー®。自然の恵みやつくり手の想いを、次の美しさへとつないでいきます。季節ごとに変わる素材を手に取り、色や形を自由に組み合わせながら、あなただけのポプリを仕立てていきます。仕上げには、銀座限定フレグランス「SHIKI FRAGRANCE」からお好きな香りを付けて。素材を育む生産者、捨てられるはずだった素材に新たな価値を与えるつくり手、そして自分だけの自然を紡ぐあなた。銀座の地から、みんなの笑顔が未来へつながっていく、そんな温かい循環をあなた自身の手でつくってみませんか？

フレグランスポプリ　3,960円（税込）／1袋
※体験と製品代込みの金額です。
※ものづくり体験及びお渡しまでの所要時間は、30分程度です。

EXCLUSIVE

街の歴史と四季を重ねる香り「SHIKI FRAGRANCE」

日本には四季のうつろいの中にある繊細な時間を愛でる文化があります。SHIRO 銀座本店では、日本の四季が描くグラデーションと銀座の街から着想を得た、ここだけの 4 つの香りをご用意しました。春を彩る桜と街を守る柳が溶け合う「SAKURA」。竹の佇まい、ガラスに息づく引き算の美学を映した「TAKE」。深みを増した味わいの抹茶に煉瓦街の記憶を重ねた「MATCHA」。そして冬の暮らしに寄り添う灯とガス灯のぬくもりを表現した「AKARI」。まとうたび、季節のはざまにある繊細なうつろいを感じていただけます。



〈銀座限定フレグランス〉
SHIKI FRAGRANCE
SAKURA／TAKE／MATCHA／AKARI 全4種
各5,060円（税込）／40ml

SHARE POST

銀座から世界へ届ける「お便り」と「SHARE POST」

画面だけで簡単に言葉を交わす現代だからこそ、手書きで想いを伝える愛おしい時間を。銀座に古くから根付く「美意識ある手紙文化」にならい、店内にはお手紙を綴る窓辺をつくりました。限定フレグランスのご購入時やポプリブレンダーラボを体験いただいた方へ、1 枚のはがきをお渡しします。旅先で大切な誰かを想い絵葉書を送るように、どうぞ心に浮かぶままにペンを走らせてみてください。投函するのは、このビルで長年人々の営みを支えてきた古いポスト。銀座の窓辺で綴られたあなたの1 枚を大切にお届けします。



SHOP LIST

北海道	
SHIRO 砂川本店	北海道砂川市豊沼町54-1 みんなの工場内
SHIRO 札幌ステラプレイス店	北海道札幌市中央区北5条西2-5 JR タワー 札幌ステラプレイス センター B1

関東	
SHIRO 表参道本店 SHIRO BEAUTY 表参道本店	東京都渋谷区神宮前5-2-7 2F 東京都渋谷区神宮前5-2-7 B1F
SHIRO 銀座本店	東京都中央区銀座 3-3-12 銀座ビルディング 1, 2F
SHIRO 銀座三越店	東京都中央区銀座4-6-16 銀座三越 B1 ギンザコスメワールド
SHIRO ルミネエスト新宿店	東京都新宿区新宿3-38-1 ルミネエスト新宿 B1
SHIRO 伊勢丹新宿店	東京都新宿区新宿 3-14-1 伊勢丹新宿店 本館 1F イセタン ビューティーコスメティックス / 本館 B2 イセタン ビューティー アポセカリー
SHIRO 丸ビル店	東京都千代田区丸の内2-4-1 丸ビル B1
SHIRO 渋谷 PARCO店	東京都渋谷区宇田川町15-1 渋谷PARCO 1F
SHIRO +Q（プラスク）ビューティー 渋谷スクランブルスクエア店	東京都渋谷区渋谷2-24-12 渋谷スクランブルスクエア ショップ&レストラン6F
SHIRO 渋谷ヒカリエ ShinQs 店	東京都渋谷区渋谷2-21-1 渋谷ヒカリエ ShinQs 1F
SHIRO ルミネ池袋店	東京都豊島区西池袋1-11-1 ルミネ池袋 B1
SHIRO ルミネ北千住店	東京都足立区千住旭町42-2 ルミネ北千住 3F
SHIRO ルミネ横浜店	神奈川県横浜市西区高島2-16-1 ルミネ横浜 1F
SHIRO ルミネ大宮店	埼玉県さいたま市大宮区錦町630番地 ルミネ大宮店 ルミネ2 3F
SHIRO/TIAT DUTY FREE BEAUTY	東京都大田区羽田空港3-4-2 第2ターミナル3F 国際線出国エリア内

中部	
SHIRO タカシマヤ ゲートタワーモール店	愛知県名古屋市中村区名駅1-1-3 タカシマヤ ゲートタワーモール 6F
SHIRO ジェイアール名古屋タカシマヤ店	愛知県名古屋市中村区名駅1-1-4 ジェイアール名古屋タカシマヤ 3F 化粧品

近畿	
SHIRO 大丸京都店	京都府京都市下京区四条通高倉西入立売西町79 大丸京都店1F
SHIRO ルクア イーレ店	大阪府大阪市北区梅田3-1-3 ルクア イーレ 2F
SHIRO 阪急うめだ店	大阪府大阪市北区角田町8-7 阪急うめだ本店 3F HANKYU BEAUTY
SHIRO 大丸心斎橋店	大阪府大阪市中央区心斎橋筋1-7-1 大丸心斎橋店本館1F
SHIRO 大阪タカシマヤ店	大阪府大阪市中央区難波5-1-5 高島屋 大阪店 1F 化粧品売場
SHIRO 大丸神戸店	兵庫県神戸市中央区明石町40番地 大丸神戸店 本館 1F 化粧品

中国・四国	
SHIRO ミナモア広島店	広島県広島市南区松原町2-37 ミナモア 2F東

九州	
SHIRO 岩田屋店	福岡県福岡市中央区天神2-5-35 岩田屋本店 本館 1F 化粧品
SHIRO 博多阪急店	福岡県福岡市博多区博多駅中央街1-1 博多阪急 1F 化粧品

KOREA	
SHIRO Seongsu	57, Yeonmujang-gil, Seongdong-gu, Seoul, Korea
SHIRO LOTTE WORLD MALL	1F, 300, Olympic-ro, Songpa-gu, Seoul, Korea
SHIRO LOTTE DEPARTMENT STORE PYEONGCHON	180, Simin-daero, Dongan-gu, Anyang-si, Gyeonggi-do, Korea
SHIRO LOTTE DEPARTMENT STORE MYEONGDONG	B1, 81, Namdaemun-ro, Jung-gu, Seoul, Korea

TAIWAN	
SHIRO 新光三越台北信義新天地A11店	台灣台北市信義區松壽路11號1樓
SHIRO 誠品生活南西店	台北市中山區南京西路 14 號 1 樓 誠品生活南西

HONG KONG	
SHIRO K11 Musea	B112A, B1, K11 MUSEA, Victoria Dockside, 18 Salisbury Road,Tsim Sha Tsui, Kowloon, Hong Kong

UK	
SHIRO Monmouth Street	Ground Floor, 63 Monmouth Street, London, WC2H 9DG, UK

SHIRO PAPER
Issue 8

編集長：今井浩恵
Editor-in-Chief: Hiroe Imai

クリエイティブ・ディレクター &
表紙写真：佐々木信（3KG）
Creative Director &
Cover Photographer: Shin Sasaki

発行人：福永敬弘
Publisher: Takahiro Fukunaga

グラフィックデザイナー：石田愛実（3KG）
Graphic Designer: Manami Ishida

編集：菅野幸子
Editor: Sachiko Sugano

翻訳：シンヤ B
English Edition Translator &
Copy Editor: Shinya B

Thanks to：
福山寛人、河島春佳、小倉寛之、松井富一、井清達夫、菅純子、藤條由妃、荒井達雄、荒井浩明、荒井よし枝、45R、朝比奈秀雄、串畑文彦、島村義典、宮下貴裕、堀田豊稔、野々村千晶、河原崎拓也

Copyright © SHIRO CO., LTD.
All Rights Reserved.
本誌掲載の写真、イラストレーション、記事、ロゴの無断転載および複写を禁じます

発行：株式会社シロ
お問い合わせ
TEL: 0120-275-606
MAIL: info@shiro-shiro.jp

shiro-shiro.jp
shiro_japan
shiro_sunagawa
maisonshiro_
sunagawa_parkhotel
morishiro__